

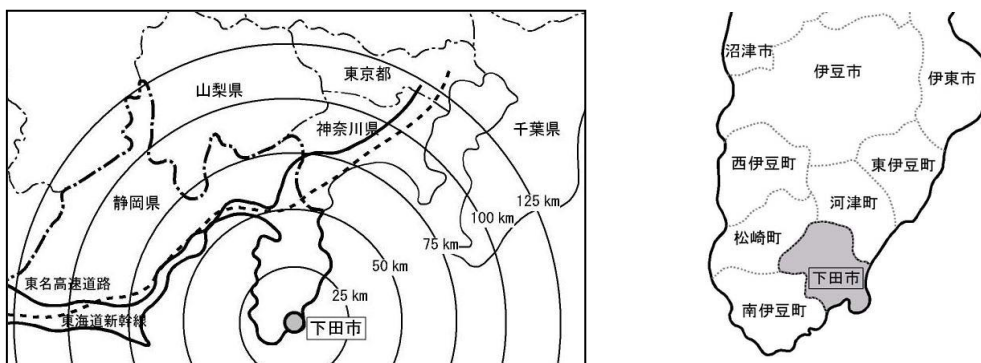
◇下田市ってどんなまち

下田市は、静岡県の東南部、伊豆半島の南部東側に位置しており、東京都心からは 140 km 圏、熱海・三島からは 50 km 圏にあります。市域は東西 13 km、南北 16 km で、面積は 104.38 km² の広がりを持っています。

本市は、天城山系の南端から太平洋に至る豊かな自然に恵まれたまちです。天城山系から続く急峻な山々と約 47 km に及ぶ素晴らしい海岸線は、下田を特徴付ける美しい景観をかたちづくり、本市の貴重な財産として、社会・経済の基盤を支えています。また、年平均気温は約 17 度と温暖であり、降水量も年間 1,900mm あまりと豊富です。このような気候と地形条件により、亜熱帯系から亜寒帯系までの様々な草花や果実を四季を通じて楽しむことができ、黒潮が育む豊富な海産物とあわせて本市の魅力となっています。全国的に進行する都市化の中で、まだまだ美しい自然環境や懐かしい風景を残す地方都市といえます。

さらには、豊富に湧出する温泉や幕末開港の歴史、美しい海を活用したマリンスポーツなど、多くの観光資源に恵まれ、本市は首都圏を中心とする多くの来遊者の皆様を受け入れる観光地として発展を続けてきています。

〔下田の位置〕



〔人口と世帯数のようす〕

令和 6 年 4 月 1 日現在、人口は 19,545 人、世帯数は 10,402 世帯となっています。本市の人口は、昭和 51 年の 32,054 人をピークに毎年減少が続いています。また、年齢階層別の人口では、昭和 50 年には、年少人口（14 歳以下）割合は 23.2%、高齢人口（65 歳以上）割合は 9.9%であったものが、令和 2 年の国勢調査では、年少人口は 8.4%、高齢人口は 42.5%となっており、人口の減少とともに、少子化・高齢化が急速に進んでいます。

しかし、本市は年間約 300 万人の観光来遊者が一年を通して訪れており、街を歩く人や車の交通量は多く、賑やかな印象があります。特に、夏の海水浴や早春の花、黒船祭等のイベント時は大変賑わいを見せます。このため、同じ人口規模の地方都市に比べると、比較的交流機会の多いまちと言えます。

〔気候のようす〕

下田市は、黒潮が流れる太平洋に面しているため、年間平均気温は約 17℃と比較的温暖的な気候で、真冬でも降雪はほとんどないことから、比較的暮らしやすい気候と言えます。

しかし、地形や季節によってかなり条件は異なり、冬には、山間部では氷点下まで気温が下がり降霜や氷結がおきることもあり、海岸部では厳しい季節風や飛び砂にさらされる地域もあります。また海岸部では、塩害により車や家の傷みが早くなることもあります。また、台風の暴風雨に驚かれる人も多いです。

伊豆は「南国」という温暖で穏やかなイメージですが、いざ定住となると、意外に厳しい一面があることに驚かれるかもしれません。

〔産業のようす〕

令和 2 年の国勢調査による本市の産業分類別就業人口の割合は、第 1 次産業(農林漁業)従事者 5%、第 2 次産業(工業)従事者 12.7%、第 3 次産業(サービス業)従事者 81.7%となっています。地域の産業としては、観光業を支える宿泊施設、飲食業、卸小売業などを中心としたサービス業が主体の産業構造となっています。このほか、小規模経営ながら地域の自然資源を生かした農林業、水産業も行われています。

〔下田までのアクセス〕

下田市は、首都圏からは日帰りも可能な位置にあります。

下田市へのアクセス手段は、電車と車が中心となります。

電車の場合は、下田―熱海間を伊豆急行線・JR伊東線が結んでいます。首都圏からは、新幹線で熱海乗換えか、東京―下田間直通の特急電車をご利用いただくと約 3 時間です。

車の場合は、東名高速道路から東海岸を通る国道 135 号か、半島の中心を通る国道 414 号を利用するコースがあり、約 4 時間が目安になります。現在、東名高速道路沼津 IC と下田を 60 分で結ぶ高規格幹線道路「伊豆縦貫自動車道」の整備が進められています。

また、下田港からは、カーフェリーにより伊豆七島（新島、式根島、神津島、利島）を結ぶ定期航路が運航されております。

〔特色ある下田の歴史〕

下田港は、古来より東西海上交通の要衝となる重要な港でした。江戸時代には、風待ち港や物資の補給基地として利用され、特に海の関所である船改番所が設置された時代は、「出船入船三千艘」と称される繁栄を迎えました。

幕末には、ペリー来航により締結された日米和親条約により下田が開港場となり、その後、ハリスが玉泉寺に日本初の総領事館を開設しました。またロシア使節プチャーチンが来航し、日露和親条約が締結されるなど、日本開国の表舞台として、日本の歴史上に大きく名を残しています。市内には当時の史跡や資料などが数多く残されているとともに、国際交流の息吹が現在まで脈々と受け継がれています。

◇下田の地域構成について

下田市には、町村合併前の地域で構成される6地区（下田、稲生沢、稲梓、浜崎、朝日、白浜）があり、現在でも地区ごとにそれぞれの特長が色濃く残されています。この中に40の自治会組織があり、地域活動が行われています。

〔地域のコミュニティ〕

下田市は、観光等による交流が盛んな地域であることから、都市的な意識が広がってきている反面、昔ながらの伝統や風習がまだまだたくさん残されています。

初めて下田に転入される場合、地域でのコミュニティ活動への参加には戸惑うこともたくさんあるようです。「田舎はのんびり暮らせる」というイメージと裏腹に、「田舎は意外に忙しい」のが実情です。お住まいの場所を決める際には、地域のルールやおつきあいなども確認していただくことをお勧めします。

〔地域の暮らし〕

下田市の自治会活動は、都会とは違って地縁的な結びつきが残されており、相互扶助を前提とした活動がたくさんあります。例えば、ご近所の冠婚葬祭のお手伝い、住民の方が参加して行う環境美化活動、お祭りなどの伝統行事など、地域の住民となると参加しなければならないものがたくさんあります。また自治会に入ること、区費、組費、消防協力費、寄附金、テレビ組合費などの金銭的な負担が必要となることもあります。

さらに、下田市では、地域防災やごみ収集、市からのお知らせ（回覧板）など、自治会組織を利用した取り組みが多くあります。

〔6地区のあらまし〕

《下田地区》

下田の行政、商業、生活等の中心地。港町の風情、開国の歴史、歴史的なまちなみを感じることができます。

《稲生沢地区》

古くからの温泉場の風情を残す地域。中心市街地にも近く、快適な生活環境と適度な利便性を備えています。

《浜崎地区》

美しい海を活かした漁業の盛んな地域。海が近い生活ができますが、地縁的な結びつきが強い傾向があります。

《朝日地区》

美しい海岸と山里に囲まれた地域。外国人や別荘などが多く、交流居住が盛んな地域です。

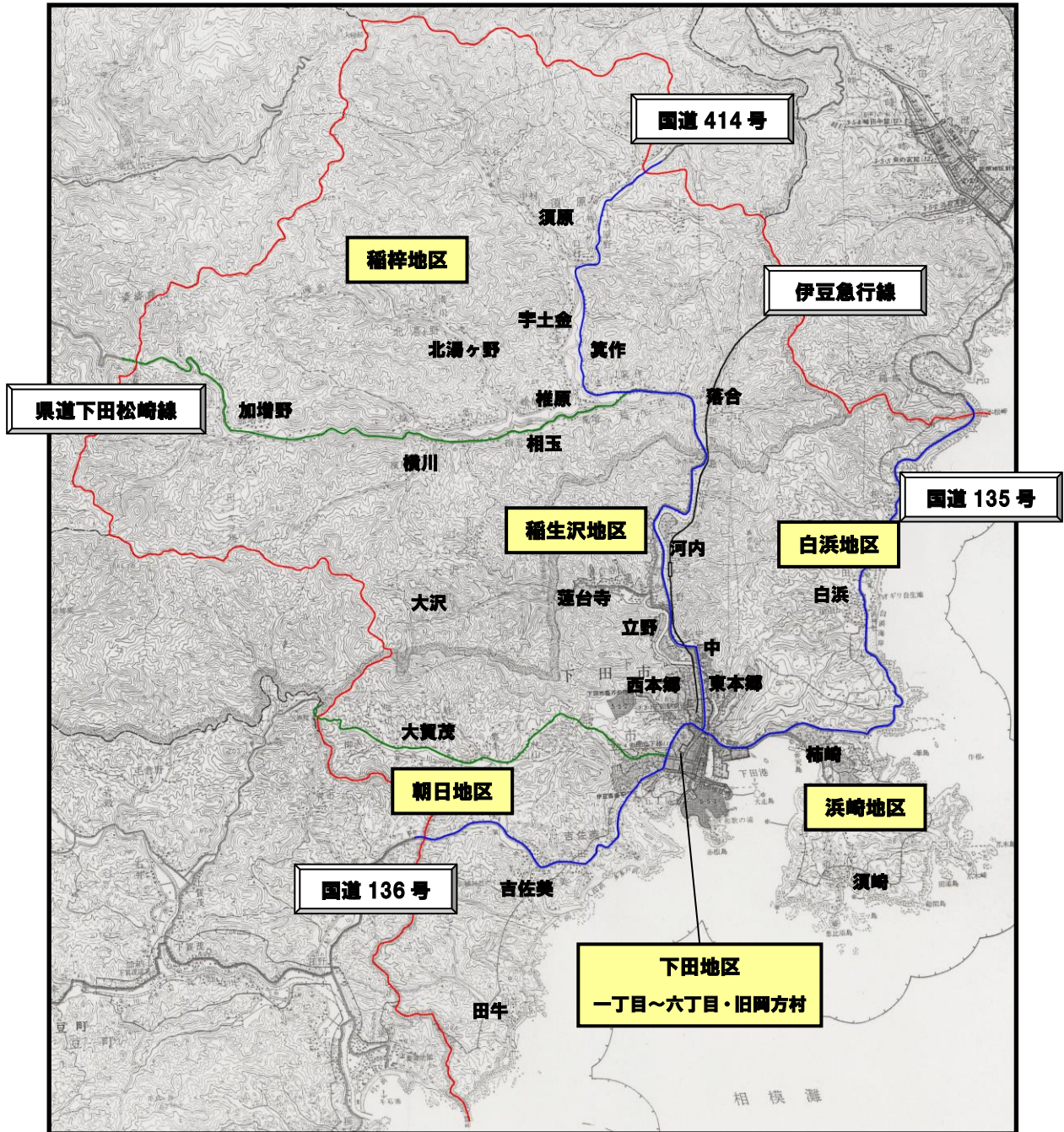
《稲梓地区》

山と清流に囲まれた里山景観を残す地域。農業や山里生活にぴったりです。買い物などの日常生活や交通はやや不便です。

《白浜地区》

太平洋と白い砂浜を眼前に望む地域。温暖で一年中マリンスポーツで賑わいます。夏季は来遊者で大変賑やかになります。

《下田市の概要図》※掲載の地名は、自治会名ではなく、主な住居表示を示したものです。



《間違いではないですよ！下田の住居表示》

下田市の住居表示の特徴として、市街地において「下田市一丁目～六丁目」という住所がありますが、間違いではありません。

※一般的には、「◇◇市〇〇町一丁目」という表示がされています。